



■	目次	説教の課題	Our Master's voice 座談会総括4/6 テーマⅣ 病気や高齢者の多い教会で、どのように牧会をしていったらよいか	三輪 恵愛	1
■	目次	旧約聖書に聴く	「原初史が語る人間と世界」(4) 「エデンの園」	澤谷由美子	2
■	目次	憲法改正25年(第5条 会員)	教会員の「教会の務めにあずかる光栄と責任」とは	高松 牧人	3
■	目次	教会、この地とともに③	柳川教会 三人の出会いと祈りからの始まり	市野 幸子	5
■	目次	コロナの現場④	「在り方」を見直す機会にしたい	柴田由起子	6
■	目次	コロナ禍の中で⑫	根源的な変革が求められている！ IT活用についてテレビ会議Zoomで講演	森田 幸男	6
■	目次	こいのにあ	九州中会修養会 初めてのWeb会議開かれる	吉田 純	7
■	目次	こいのにあ	近畿中会 2・11学習会	秦 博記	7
■	目次	こいのにあ	教会ニュース	山本 盾	8
■	目次	こいのにあ	教会ニュース		8



Our Master's voice

すると、イエスが行く手に立っていて、「おはよう」と言われた

(マタイによる福音書28章1-10節)

み わ しげ よし
三 輪 恵 愛

ビクター社は、犬が耳を蓄音機ちくおんきにそばだてている絵を広告に使いました。聞き入っているのが亡くなった飼い主の声というのは有名な話です。添えられたキャッチフレーズは「His Master's voice」ご主人様の声です。

今も語られる主人の声に耳を傾ける。そのお方の姿がはっきりとは見えなくても、懐かしい声に耳を傾ける。そういった意味では、教会は蓄音機が発明されるよりもずっと前から、そうしてきました。

ところが、ここでの二人のマリアの姿は、その声が聞こえてこない！どうすればよいのかわからない！というものであったと思います。

お墓の前に座り、イエスさまの声が聞こえなくなった今(27章61節)、「本当に、わたしはこのお方の声を聴き取っていただろうか。このお方の声が聞こえなくなることを、恐れをもって考えていただろうか。このお方の声を聞かなければ、どうして生きていけるだろうか」と二人は耳を澄ませます。けれどもお墓からはなにも聞こえません。

一日置いた週のはじめの日、二人はもう一度、出かけます。理由は記されていません。声が聞こえてくるのかは、わからない。それでも行くのです。この二人の姿に現れているものがあります。神さまが信仰をあたえ、その声が聞こえてくる瞬間に希望を持たせてくださるということ。

大地震が起きます。そこに稲妻の輝き、雪のような白さの主の天使が降り立ちます。

そこにいたのは墓を見張る番兵たち。あたかも、死は沈黙に終わり、そこから新しい言葉は一切聞こえてこない、そのような主張を守ろうとしていた人たちです。ところが、そんな彼らが信じられない出来事の前に、恐ろしさのあまりに死人のようになり、なにも語れなくなります。

一方二人のマリア、恐ろしかったはずですが。けれども死人のようにはなりません。生き続けます。聞こえてくるみ言葉への期待が彼女たちを生かすのです。

「おはよう」、これが待ち続けた二人のマリアに語られるイエスさまの言葉でした。

ギリシャ語では「カイレテ」という言葉です。ユダヤ人の挨拶、シャローム「あなたに平和があるように」とか、「神の恵みがあるように」という言葉です。この二人は、たしかに日ごろの言葉を語り、イエスさまと親しく交わっていました。

主人の声が聞こえてくる時を待ち続けた二人へ、「おはよう。希望の朝、復活の朝がきた。さあ、わたしのもとにきなさい」。二人のマリアにかけたイエスさまの言葉が聞こえてきます。

復活の希望は、人がいつの日か生き返る。この約束を信じることだけでは終わりません。どれほど恐ろしいことが起きようとも、世の言葉が死の前に沈黙しようとも、神の言葉はけっして滅びることなく、今、聞こえてくる。その瞬間に期待をかけること。これも、今を生きるわたしたちにとっての復活の希望です。

「おはよう」と語る復活のイエスさまに二人は近寄り、ひれ伏します。み言葉に期待をかけた二人。祝福された信仰が、朝の光に照らされます。

「Our Master's voice」わたしたちの主人の声が聞こえてきます。さあ、この方をひれ伏し拝み、復活を告げる道を一緒に歩んでまいりましょう。行く手に立つ復活の主が、わたしたちを新しくする神の言葉を、今日も語りかけてくださいます。

父、子、聖霊の御名によって。アーメン。

(岐阜教会牧師)